

着任挨拶

伊藤 治 国際農林水産業研究センター (JIRCAS) 生産環境領域長 客員教授 (2010年4月1日～2011年3月31日)

ICRISATやIRRIといった国際農業研究機関でのささやかな経験を生かして、何かお手伝いできないかということで、2010年4月から客員教授をさせていただいております。海外での農業協力で日本の位置を確固たるものにするには、一つの機関が単独で行うのではなく、大学、農水省の研究機関、JICAそれに民間の機関が一丸となって取り組むシステムが必要であることを痛感しております。ネットワークを通しての日頃の情報交換、研究課題発掘、プロジェクト立案等によって、海外の機関と同等な、また彼等をリードするような立場での現地活動ができるのではないかと考えております。9月にオープンセミナーと集中講義をさせていただき、学生の方々と接触する機会を持つことができ、若い方々の真剣さ、能力の高さに感銘を受けました。

略歴 1950年生まれ。東京大学農学部大学院農芸化学専攻にて博士号取得。IRRI、C.F. Kettering Res. Labにてポストドク。国立公害研、農環研を経て、JIRCAS。この間、ICRISAT、IRRIにてプロジェクトリーダー並びに生理生態部長。2000年より現職。ICRISAT、IFDC理事歴任。



伊藤 圭介 農学知的支援ネットワーク (JISNAS) 事務局次長

2010年10月1日付でJISNAS事務局次長に着任しました。これまでJICA職員として、主に農業・農村開発分野における技術協力の計画、実施および評価に従事してきました。大学の開発協力への参加促進と大学を含む関係者間の連携強化は開発協力の質向上の鍵だと考えています。JICAでの業務経験を活かして、JISNASの活動を支援していく所存ですので、皆様のご協力とJISNASへの積極的な参加をよろしく申し上げます。

略歴 1971年12月名古屋生まれ。北海道大学農学部農業経済学科卒業後、JICAに入団。JICAでは、ポリビア事務所、農村開発部、企画部などに所属。ポリビアは、事務所でも農業・農村開発分野を担当後、現地の大学院 (NUR大学) に留学し修士号「持続可能な開発」を修得。2010年10月より現職。



永石 雅史 名古屋大学国際環境人材育成プログラム特任教授兼 農学知的支援ネットワーク事務局員

三十路手前でJICAに転職してから、様々なことを経験しましたが、多くは無償資金協力や開発調査他の調査畑で、とりわけ都市環境、防災分野およびミダナオの復興・開発に携わってきました。途上国の駐在経験はスリランカ3年、フィリピン4年 (うちミダナオ2年) です。ミダナオでは、復興・開発の専門家 (外務省出身) として国際監視団に所属しました。これまでの経験から、今後の国際協力分野では若い技術系の人材 (国内外問わず) を育成することが急務であると痛感しており、そういう意味では大学とJICA他国際協力の業界との連携は非常に重要であり、その枠組みづくりに寄与していきたいと考えています。

略歴 1963年大分県生まれ。2003年法政大学大学院で経済学修士 (開発経済) 取得。専門は開発社会学。1987年慶応義塾大学卒業後、6年間の民間会社勤務を経て、1993年JICAに転職。無償資金協力調査部、スリランカ事務所、社会開発調査部社会開発調査第二課長代理、地球環境部水資源・防災第二チーム長を経て、2006年外務省に転出。在フィリピン日本大使館政務班一等書記官兼ミダナオ復興・開発上級アドバイザーとして国際監視団に2年間籍を置く。その後JICAフィリピン事務所次長としてミダナオ案件を総括。2010年10月より現職。



離任挨拶

Dr. Elijah Miinda Ateka ジョモケニヤッタ農工大学農学部園芸学科・上級講師 ICCAE 客員研究員 (2010年4月16日～11月15日)

2010年4月19日にICCAEに着任し、榎原先生から他のメンバーに紹介していただきました。名古屋大学での7ヶ月は実り多く刺激的で、研究も楽しくできました。これも関係の皆さんのご厚意によるものと感謝しています。第一に、招へいしていただいた山内センター長に、また、浅沼、榎原、犬飼それに北野各先生がケニアの稲作振興に大きな関心を抱き、標準判別品種を用いたケニア用イネいもち病菌レース判別システムの開発を指導していただいたことに感謝いたします。愛知県農業総合試験場山間農業研究所の中嶋、水上両氏には稲の交配といもち病抵抗性評価の実験技術を指導していただき、習得できたことに謝意を表します。最後に、いもち病菌の純粋分離とレース検定のご指導をいただいたつくばの農業生物資源研究所の林長生上級研究員に謝意を表します。

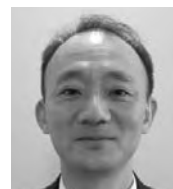
略歴 1972年生まれ。ナイロビ大学で、1995年農学士、1999年農学修士 (植物病理学)、2005年農学博士 (植物病理学) 取得。ケニア国立農業研究所で研究員を務め、2006年ジョモケニヤッタ農工大学園芸学科講師に採用。現在に至る。



田和 正裕 名古屋大学国際環境人材育成プログラム・シニアコーディネーター兼 農学知的支援ネットワーク事務局員 (2008年10月1日～2010年9月30日)

10月1日付けで2年の勤務を終えJICA企画部企画役として復職しました。在任中は、国際的なリーダーを育成する「国際環境人材育成プログラム」の運営と全国の大学を結ぶ「農学知的支援ネットワーク」の立ち上げに携わらせていただきました。ともに重要な使命を持った業務であり、本当に幸福でした。JICAでは企画部で新たな開発課題への対応や事業戦略作りや大学連携に携わります。今後も引き続きご指導、ご鞭撻の程よろしく願いいたします。

略歴 1963年生れ。大阪府立大学大学院農学研究科博士前期課程終了後、国際協力事業団 (JICA: 現国際協力機構) に勤務。インドネシア事務所、企画部、無償資金協力部、農村開発部、国際協力人材部に新規事業の企画立案、プロジェクト管理と国際協力人材の確保・活用に従事。



オープンセミナー (2010年1月～11月)

回数	日時	テーマ	講師	所属
2009年度 第7回	3月2日	JICAのアフガニスタン支援: その現状と可能性	花里 信彦	JICAアフガニスタン事務所所長 / 農学国際教育協力研究センター 客員教授
第8回	3月23日	酒造技術の改善: カンボジア米焼酎の事例研究	チャイ・チム	カンボジア王立農業大学大学院研究助手 / 農学国際教育協力研究センター 客員研究員
2010年度 第1回	7月6日	寄生雑草ストライガのネリカ米への影響とサブサハラ以南 アフリカにおける農民のストライガ対策への認識度について	エバンス・アテラ	ケニア・ビクトリア湖流域開発公社研究員 / 神戸大学大学院農学研究科博士課程前期2年
第2回	9月30日	作物・資源管理を通しての農業生産の向上に関する国際研究協力	伊藤 治	国際農林水産業研究センター生産環境領域長 / 農学国際教育協力研究センター客員教授
第3回	11月2日	講演1: ケニアにおけるイネいもち病判別システムの構築 講演2: 先端科学技術と農学国際協力	講演1: エリジャ・ ミインダ・アテカ 講演2: 前多敬一郎	ジョモケニヤッタ農工大学上級講師 (ケニア) / 農学国際教育協力研究センター客員研究員 / 農学国際教育協力研究センター教授